

『風景美術館』 日本平公園





**日本平公園からの風景と
構図がそっくりな絵画**

日本平公園からの風景と構図がそっくりな絵画



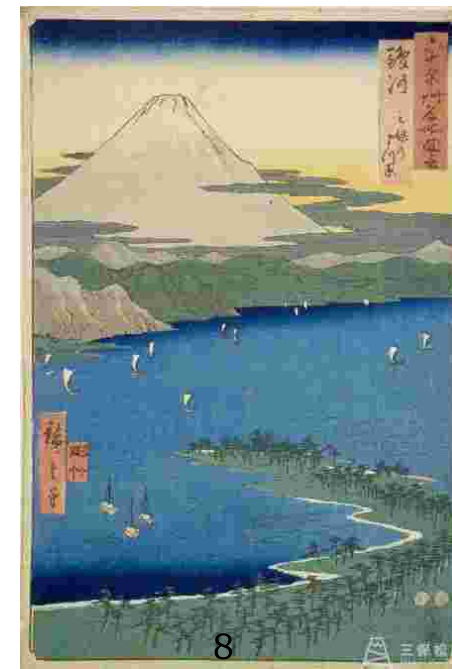
歌川豊国 名勝八景三保と雁



山下清



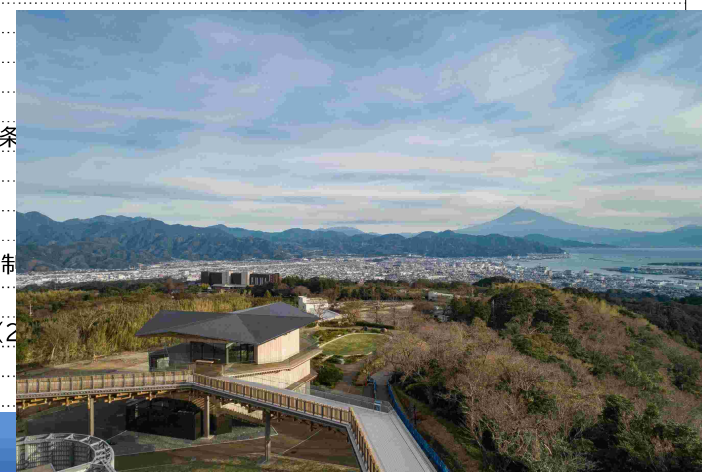
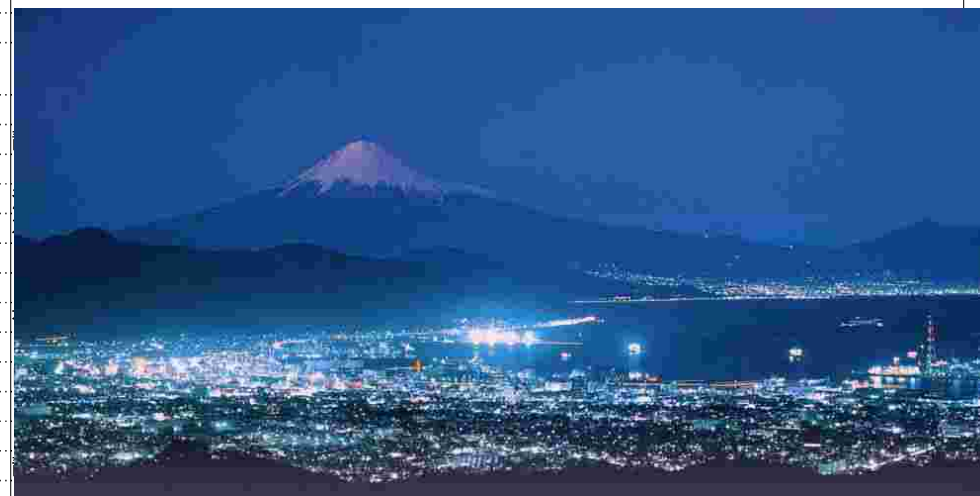
歌川広重 東海道五十三次 江尻



歌川広重
三保

日本平公園整備これまでの経緯

年	西暦	ことがら	実施者	
大正15	1926	徳富蘇峰が日本平登頂	徳富蘇峰	「実に天下第一と申し支えある
昭和2	1927	日本百景 平原の部入賞	大阪毎日・東京日日	
昭和7	1932	名勝日本平仮指定(史蹟天然記念物保存法第1条に基づく)		その後新法改正により本指定
昭和8	1933	旧都市計画法に基づく風致地区指定		旧法制定直後の「風致地区」か
昭和9	1934	日本平登山道路開通(昭和5年から掘削開始)	清水市	観光開発のきっかけ、旧道
昭和10	1935	清水市が徳富蘇峰に委嘱し展望4か所に石碑建立	清水市	吟望台、鐘秀台、超然台(有度
昭和12	1937	日本平公園 都市計画決定		
昭和25	1950	日本観光地百選 平原の部1位	毎日新聞	石碑あり(県営駐車場内)
昭和26	1951	日本平県立公園 指定	静岡県	県自然公園条例の前身
昭和28	1953	静岡県による日本平山頂の土地買い上げ、公園整備実施	静岡県	駐車場、公衆トイレ、芝生広場
昭和32	1957	ロープウェイ建設	静岡鉄道	
昭和32	1957	6月30日仮指定失効(文化財保護法附則による)、 7月1日文化財保護法第70条1項による仮指定		
昭和34	1959	名勝指定「名勝日本平」		
昭和36	1961	静岡県自然公園条例に基づく「日本平県立自然公園」指定	静岡県	
昭和37	1962	旧文化財保護法第71条の2第1項に基づき、旧清水市が管理団体に指定		
昭和39	1964	日本平ホテル本館建設	日本平ホテル	
昭和39	1964	日本平パークウェイ供用開始(有料道路)	静岡県道路公社	
昭和47	1972	日本平県立自然公園運営協議会発足		
昭和47	1972	清水日本平パークウェイ開通	静岡県道路公社	
昭和54	1979	日本観光百選コンクール 第1位	週刊読売	
昭和58	1983	名勝日本平保存管理計画策定		
昭和58	1983	静岡県教育委員会に権限委任		
平成元	1989	有度山総合整備計画-基本計画-策定(S61-63)	旧静岡市・清水市・静岡県	
平成4	1992	日本平公園基本構想・基本計画	静岡県	
平成15	2003	日本平山頂部展望施設等整備調査	旧静岡市・清水市	
平成15	2003	県営駐車場建設	静岡県	
平成16	2004	日本平パークウェイ無料開放(市道池田日本平線)	静岡市	
平成17	2005	日本平山頂部等活用基本計画	静岡市	
平成17	2005	地上波デジタル塔建設(電波塔統合)	6社	
平成18	2006	日本平公園基本構想	静岡市	
平成19	2007	名称変更「日本平・三保松原県立自然公園」		
平成20	2008	日本平公園基本計画策定	静岡市	
平成22	2010	社会総合交付金 事業認可 久能山東照宮(社殿)国宝指定	静岡市	
平成24	2012	日本平ホテル再築(リニューアルオープン)	日本平ホテル	特許事業(都市計画法第59条
平成25	2013	世界文化遺産「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」登録		
平成25	2013	公園供用開始	静岡市	
平成27	2015	基本計画改定(1回目)	静岡市	山頂施設整備に伴う
平成28	2016	日本夜景遺産 自然夜景遺産に認定 富士三大夜景に認定(2019)	(一社)夜景観光コンベンション ビューロー	都市公園法改正(パークPFI制
平成30	2018	県シンボル施設建設(日本平夢テラス)	静岡県	隈研吾氏設計
平成30	2018	市展望回廊建設(日本平夢テラス)	静岡市	隈研吾氏設計 コロナ禍(2
令和3	2021	ロープウェイ駅舎「門前の恵みたいらぎ」再築	静岡鉄道	
令和5	2023	基本計画改定(2回目) NHK大河ドラマ「どうする家康」放送	静岡市	園路変更等に伴う



（令和2年度撮影）

日本平ホテル(既)

第3駐車場(既)

第1北駐車場(453台)

第1南駐車場
(大-20台/身-7台/タシー-2台)

管理ヤード

バイク駐車場・駐輪場

梅苑

花木苑

展望の丘

電波塔工事用通路

日本平ロープウェイ(既)

デジタル電波塔(既)

日本平夢テラス(既)

展望回廊(既)

吟望台(既)

配水池

鐘秀台

日本平ホテル(既)

第3駐車場(既)

第1北駐車場(453台)

第1南駐車場
(大-20台/身-7台/タシー-2台)

管理ヤード

バイク駐車場・駐輪場

梅苑

花木苑

展望の丘

電波塔工事用通路

日本平ロープウェイ(既)

デジタル電波塔(既)

日本平夢テラス(既)

展望回廊(既)

吟望台(既)

配水池

鐘秀台

大芝生広場

公園アプローチ道路

こもれび遊歩道

手もみ茶保存会館(改築)

展望広場

センター広場

公園センター

シンボルプロムナード

月日堂(既)

トイレ(既)

東展望台(既)

前庭

中央芝生広場

路線バス停留所

景観茶畑

鐘秀台

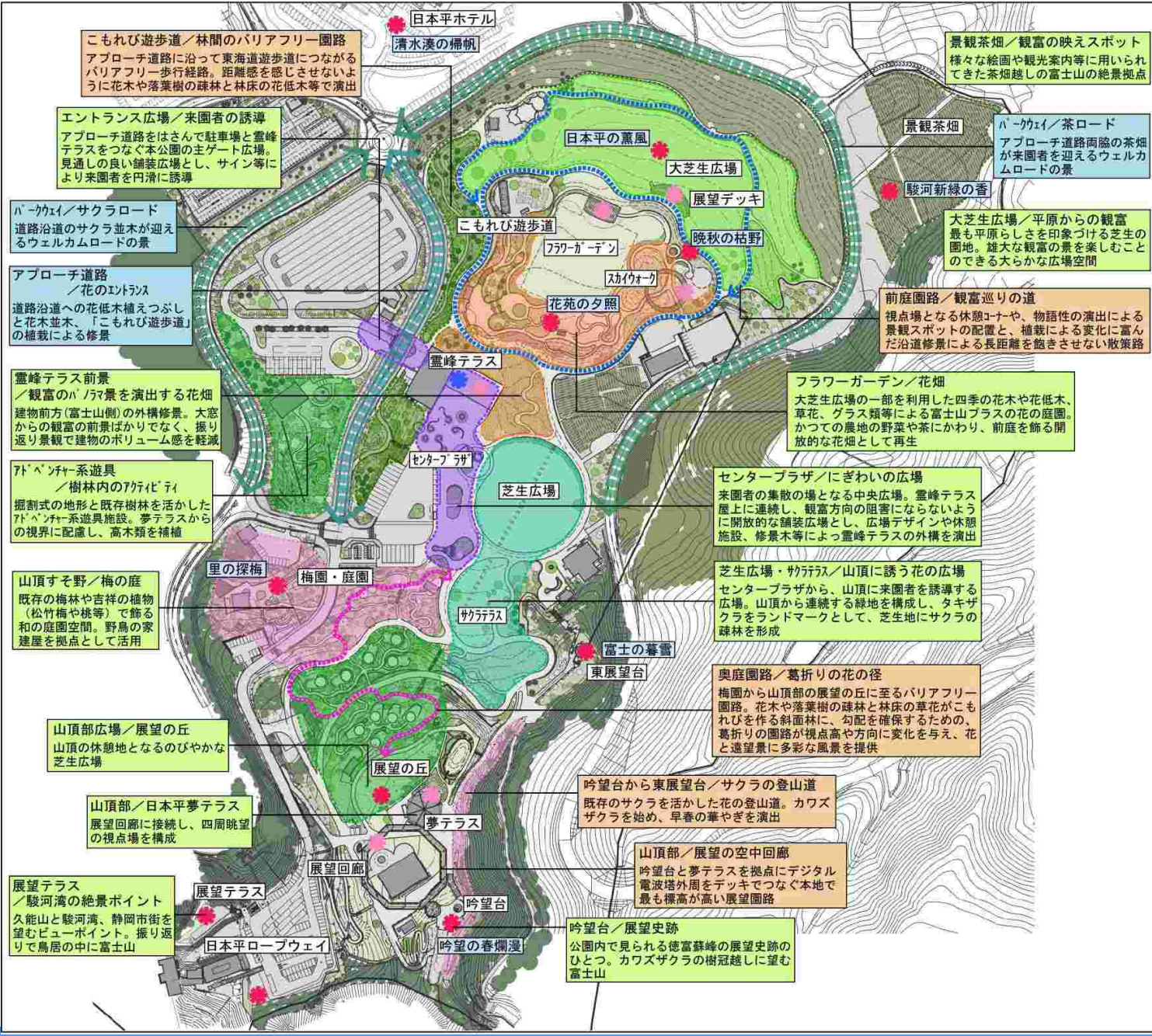
北

基本計画図（H19基本計画）

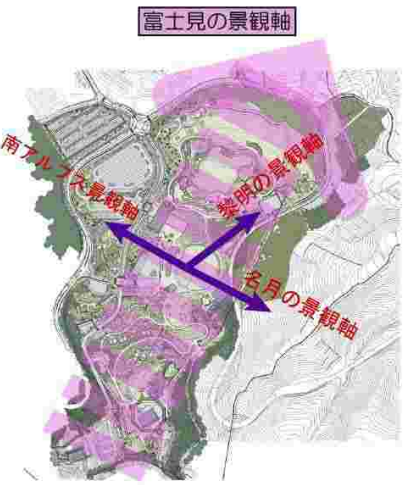
◆整備進捗状況



現時点における基本計画案



景観形成の方針図



	アプローチの演出
	面的景観演出
	移動の景観シーケンス
	点的な視点場
	線状での視点場
	室内からの視点場

SCALE=1:5,000
0 10 20 30 40 50 100 200

《名勝日本平の持続的保全》

適正な活用

《名勝日本平の価値の最大化に資する公園づくり》

《地域課題の解決に資する公園づくり》

- 地域への投資を呼び込む…適切な目的・整備、取り組みの連坦（好循環）、パークマネジメント
- 魅力、インセンティブの“見える化”…静岡市の市場での評価が上がる→投資家に選ばれ資金が流れ込む好循環
- 日本平のポテンシャルを活かしきる魅力向上で観光客、滞在時間が増加 → 経済効果
- アクセスのあり方…パーク&ライド、自動運転、次世代モビリティ、デマンド、駐車場
- 景観の向上、保全の仕組みづくり
- 都市計画決定区域の検証
- 市民のWell-being向上

《現基本計画の範囲の考え方》

「日本平公園基本計画（H19）」にて、都市計画決定範囲88.5haのうち、『利活用を主目的とする～比較的平坦な区域33.0haについて基本計画を行う』とした。

（残範囲についてはゾーニングや方針を設定）

同H19年度に「日本平公園基本設計その1」にて、比較的平坦な区域（33.0ha）のうち、平原ゾーン（8.5ha）を対象とし、具体整備に着手。その後「日本平公園基本設計（H21）」にて駐車場や観富の丘ゾーン（山頂部）など33.0ha内の設計を行った。これにより、都決範囲88.5haのうち33.0haの具体的整備を行う方針が定まり、現在に至る。

下記事項の見直し、検証を行う

- ①交通計画（アクセス手段、駐車場規模 等）
- ②施設計画、民活導入計画（整備、管理運営 等）
- ③維持管理方針（芝生広場、植栽地 等）
- ④観光計画との連携、地域振興
- ⑤茶畑景観（保全、営農支援 等）
- ⑥公園全体のランドスケープ

上記を見直すことにより、公園区域全体が基本構想で定めるコンセプト「風景美術館＝日本平公園」を達成。

◆基本計画の方向性

基本的な方向性

○基本構成

- ・風景に特化した高質の静的空間を形成。
- ・観光基本計画を踏まえた「体験コンテンツの充実」に向けた様々な動的アクティビティの導入。
- ・公園における自然環境の多様な機能を活かし、グリーンインフラとして、自然に接し、心身の安らぎや学び、遊び等の場として積極的に活用。

○サステナブル

- ・公園やグリーンインフラによって「自然資本」を回復させ、持続可能な社会を構築。
- ・エコツーリズム、サステナブルツーリズム等の観光需要の変化に対応する公園機能の向上。
- ・持続可能な公園経営を促進するため、公園利用における消費額の拡大、インバウンドの誘客促進等による運営管理を安定化。

○ウェルビーイング

- ・グリーンインフラ機能の向上や、心豊かな生活を支える居心地のよい交流・滞在空間の強化により、地域社会の魅力度や幸福度の向上、観光・集客の競争力の強化に貢献。
- ・全てのこどもの健やかな成長、安全で安心して過ごすことのできる多様な体験活動や外遊びの機会の提供。

○公園利用の活性化

- ・一年を通じて市民のレクリエーションや市民交流の場として地域活性化の中核を担う公園づくり
- ・観光需要の拡大に向け、静岡市の特産である美食・絶景・歴史をテーマとしたアクティビティによる質の高い感動体験ができる公園づくり。
- ・公園区域を最大限に活用するため、パークアンドライド等の新たな交通システムの導入、将来的なクルマ社会に応じた駐車場規模の検証、三保松原等の周辺観光地からの回遊性を進展させる新たな交通手段等の導入。
- ・集客力を高めるために、カジュアル層からエグゼクティブ層までの幅広い利用ニーズに対応する高付加価値な宿泊施設や飲食施設、貴重な体験施設やプログラム等を提供。

基本的な取り組み方針

取り組み方針①

目の前は日本一の眺望

<絶景>

○「季節が織りなす風景」

富士山を主景とした四周の風景と、園内の木々や草花が織りなす季節の移り変わりが、日本平の壮大な風景を創出し、いつ来ても感動の広がるビューポイントやシークエンスを設定

○「光が醸し出す風景」

1日の時間の中で山容を明瞭に見せる朝の風景、駿河湾から立ち上るもやで霞む日中の風景、日が沈む夕照、市街地の夜景、夜空の星の輝き等の光の風景を堪能する機能を点在させるとともに、「日本平夜市」やライトアップイベントによって夜間のアクティビティを提供

取り組み方針②

固有の歴史資源と遭遇

<歴史>

○「歴史が紡ぐ風景」

ヤマトタケルノミコトの時代を経て、日本平は家康公の東照宮に続く、1,400年余りの悠久の歴史をもつ久能山において、古くから多くの人々の信仰を集めてきた、かけがえのない聖地としての文化的風景を形成

取り組み方針③

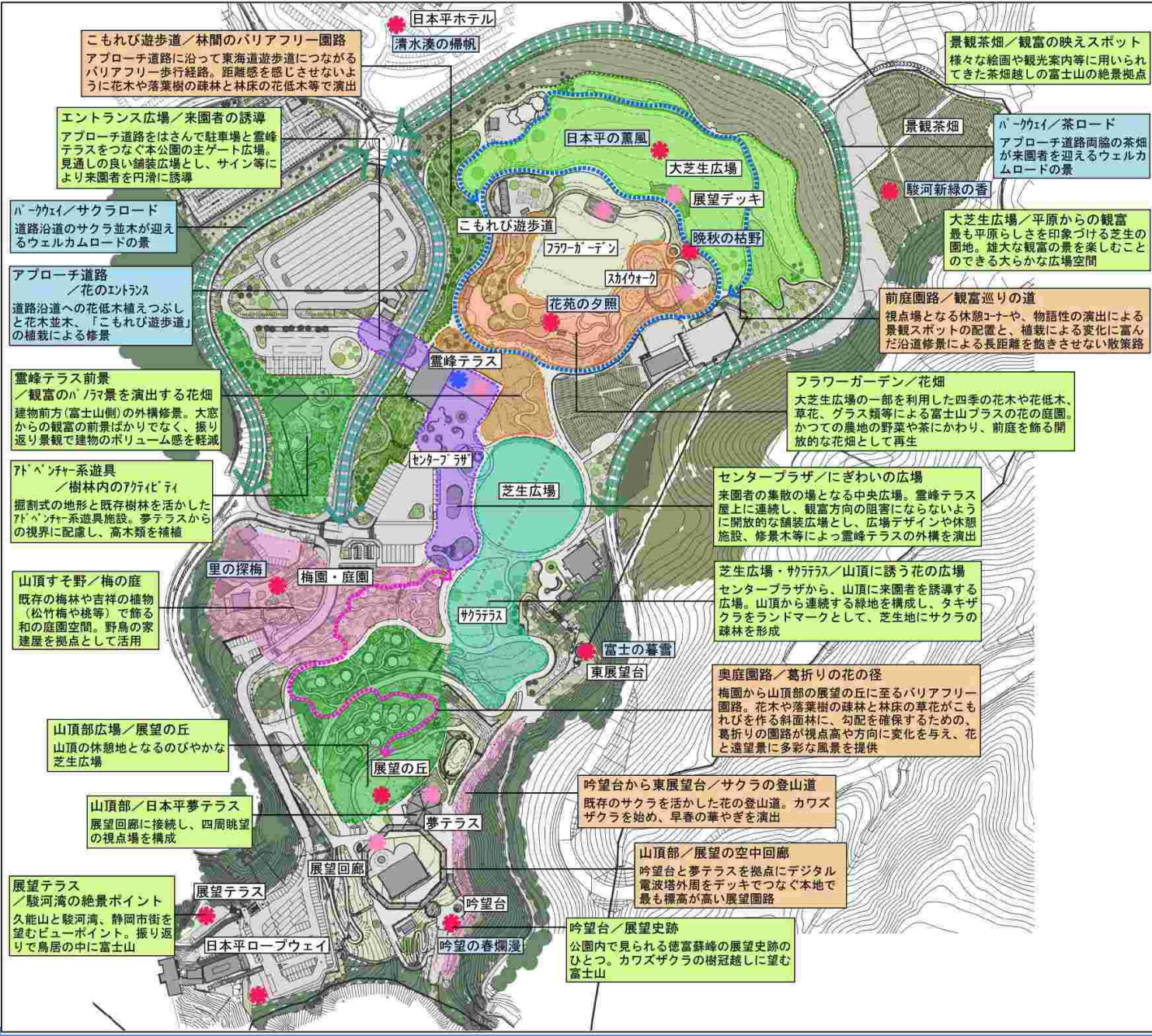
賑わいと自然体験を提供

<アクティビティ>

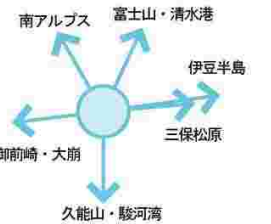
○「人が奏でる風景」

子どもたちの歓声、園内で催されるイベントや音楽の調べ、公園は人々が利用することで活気のある景観が生まれる。ウェルビーイングなライフスタイルに寄与する賑わいと交流の風景を創出

現時点における基本計画案



景観形成の方針図



	アプローチの演出
	面的景観演出
	移動の景観シーケンス
	点的な視点場
	線状での視点場
	室内からの視点場

SCALE=1:5,000
0 10 20 30 40 50 100 200

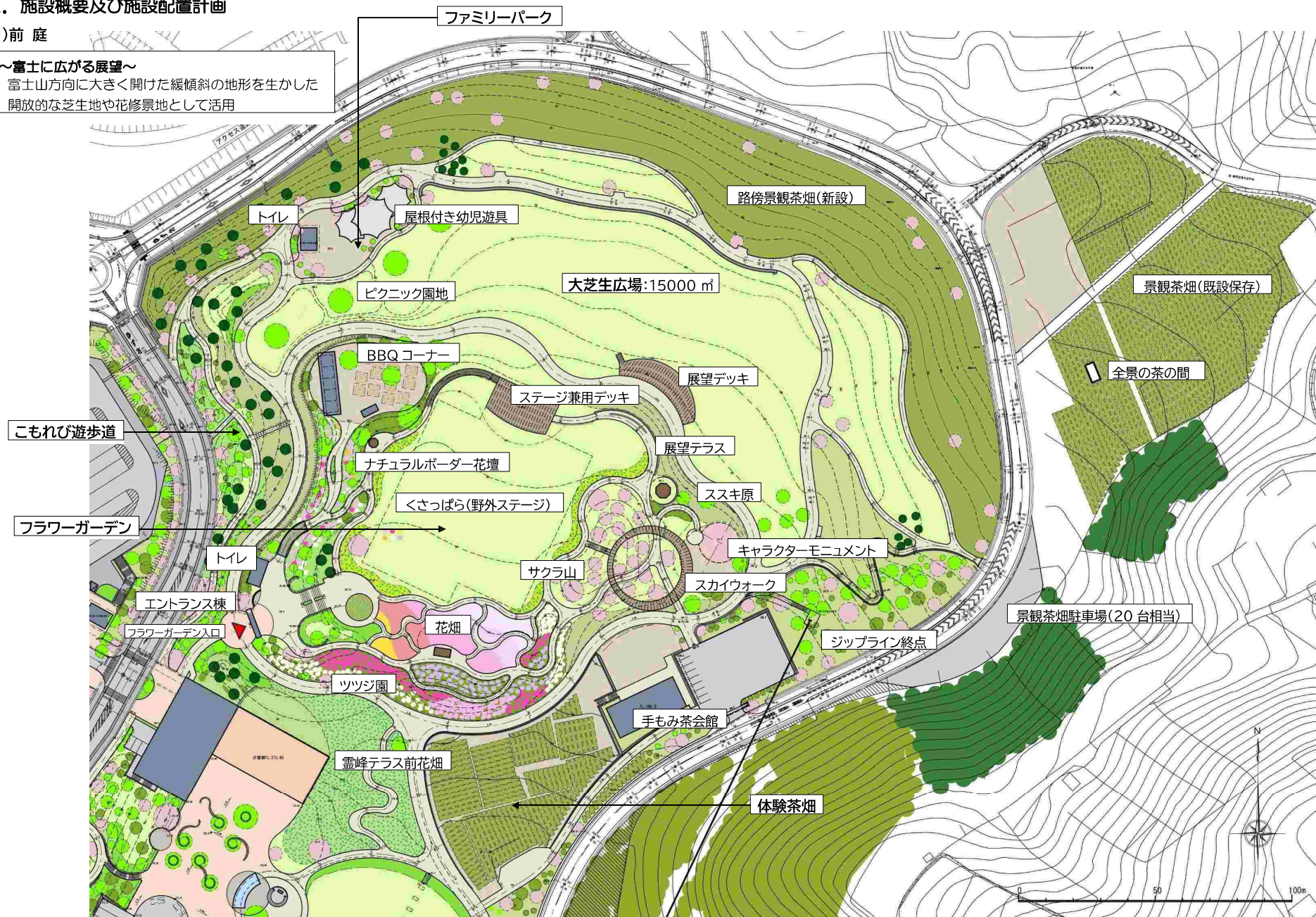
施設配置案・イメージ

2. 施設概要及び施設配置計画

(1) 前庭

～富士に広がる展望～

富士山方向に大きく開けた緩傾斜の地形を生かした
開放的な芝生地や花修景地として活用



施設配置案・イメージ

【施設概要・イメージ】

① 大芝生広場

エリア最下部（北東端）の整備済み芝生広場の延長。富士山を主景に三保半島や清水市街地、清水港、伊豆半島が遠望できる開放的な園地。本公園の重要なビューポイントとして位置づけ。



大芝生広場現況



展望デッキ（加工）



ハンモックベンチ

② こもれびの遊歩道

アプローチ道路沿いのバリアフリー対応歩行者園路。富士山の眺望を阻害しない敷地にあたるため、雑木や花木等の疎林地を形成し、アプローチ道路からの公園エントランスとしての修景地として活用。



③ ファミリーパーク

大芝生広場の北西端の一隅を位置とした、主に子ども連れの市民利用に対応したレクリエーション施設。ピクニック園地や、日陰施設を併設した幼児遊具コーナー等で構成。



ピクニック園地（ミッドタウン東京）



日陰付き幼児遊具コーナー

④ 体験茶畑

現在の手もみ茶保存会館のリニューアル。現況の茶畑を極力、残す配置・形態とする。但し、現在の会館建物の老朽化と眺望の阻害要因となっているため、移設の上で改築。

施設配置案・イメージ

② フラワーガーデン

大芝生広場から連続する上側（南西側）の緩傾斜地を園路で囲み、広大な敷地を活かした宿根草やグラス類を主体とするナチュラルガーデンや、野草が混在するくさっぱら、ツツジやサクラなどの花木等から成る草花の庭園。富士山の前景としてばかりでなく、富士山が見えない時でも楽しめる散策園地として整備。

一部にバーベキューコーナーを設けるなど、レクリエーションメニューに幅を持たせる。高い維持管理レベルを保つため、季節別園地有料・閉鎖管理を想定。



富士山の前景となる花畑



ナチュラルボーダーガーデン



くさっぱらでの野外音楽フェス



スカイウォーク(お台場海浜公園)



BBQコーナー



くさっぱら外周のグラスガーデン



富士山とキャラクターモニュメント



さくら山



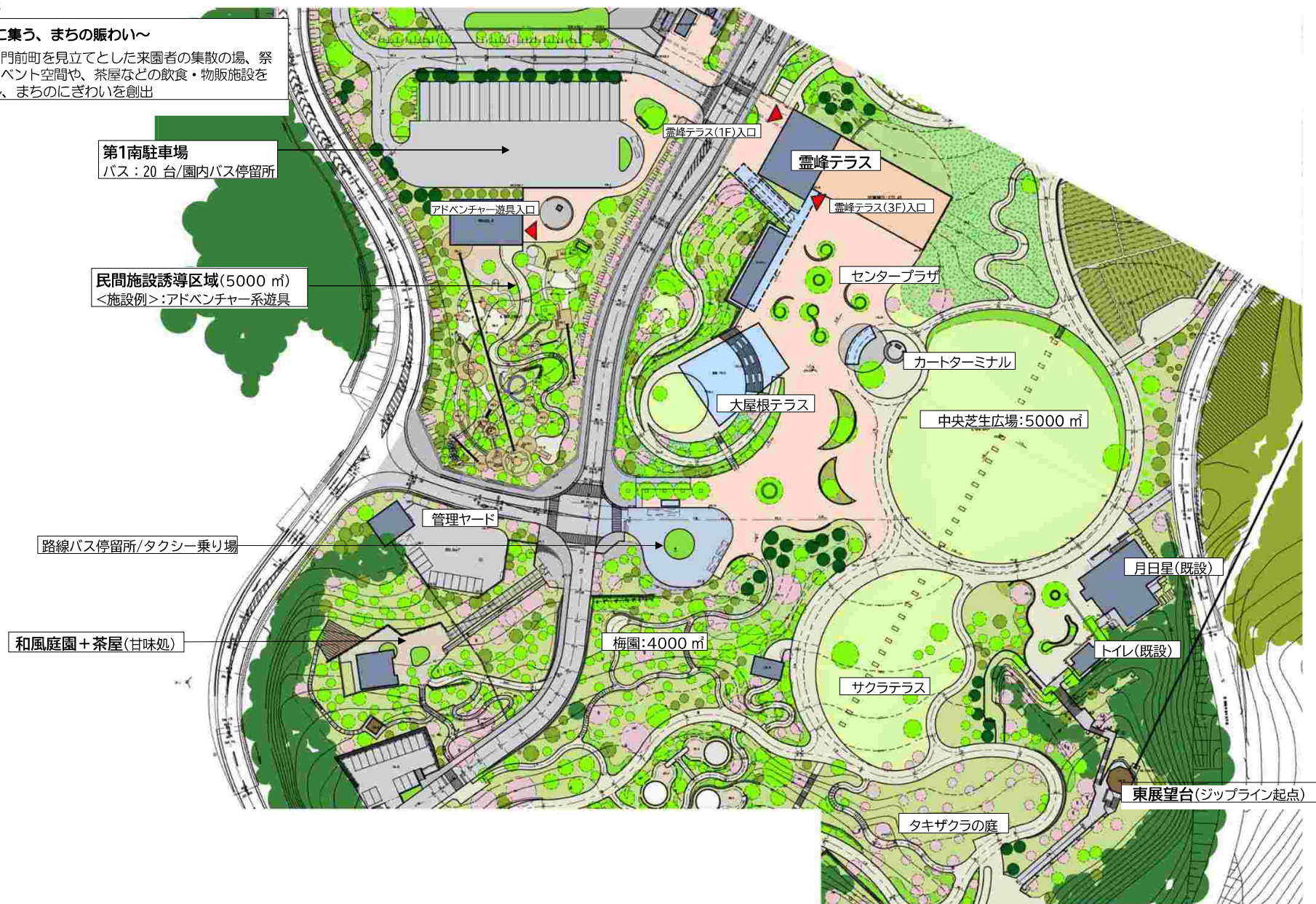
つつじ園(山のホテル)

施設配置案・イメージ

(2)中 庭

～広場に集う、まちの賑わい～

寺社の門前町を見立てとした来園者の集散の場、祭り・イベント空間や、茶屋などの飲食・物販施設を配置し、まちのにぎわいを創出



施設配置案・イメージ

【施設概要・イメージ】

① 霊峰テラス（旧公園センター）

本公園の複合サービス機能を担うセンター建築施設。富士山が見えない時も利用できる映像展示（たとえば日本平の歴史や静岡市の風景地の紹介等（絶景映像テラス））や公園のビジターセンター機能、飲食・物販、賓客を接遇するゲストルーム、公園管理事務所等の利用を想定。富士山方向に開かれた大窓や外部広場と連続した屋上部を利用した展望テラスを配置。

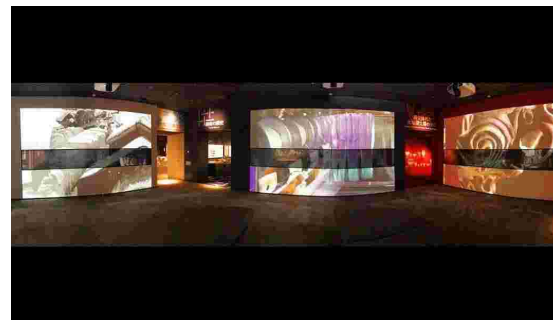
エントランス広場をはさんだ駐車場からの直近のアプローチ道路沿いに配置し、アプローチ道路とセンタープラザの比高差を解消する多層構造とすることにより、建物内のエレベーターやエスカレータによりバリアフリー経路を確保。



大窓からの富士山の景（日本平ホテル）



ガーデンレストラン（目黒雅叙園東京）



映像展示（十日町市博物館）



ミニシアター



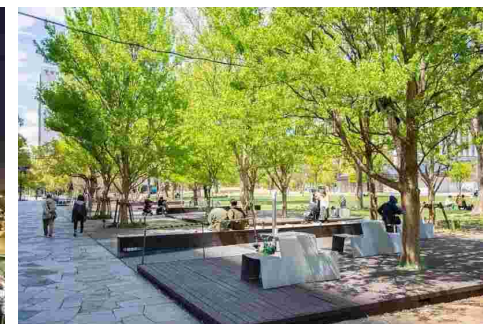
デジタルアート展（渋谷ヒカリエ）

② センター広場

霊峰テラス屋上の展望テラスにつながる中央広場。日本平夜市や梅まつりなどの様々なイベントや野外コンサート等の受け皿となる芝生広場（中央芝生広場）と、キッチンカーなどが置ける舗装広場（センタープラザ）から構成。



日本平夜市



中野セントラルパーク

施設配置案・イメージ

③ 民間施設誘導区域（施設例：アドベンチャー系遊具）

駐車場の立体化により残った駐車場南側の敷地に配置。樹林を活かしたツリーハウスや吊り橋、立体迷路、ネット遊具などを配置し、主に若年層の市民をターゲットとした有料施設として整備。



立体迷路（八景島シーパラダイス）



フォレストアドベンチャー米原



フォレストアドベンチャーよこはま

④ ジップライン

現在の東展望台（1階）と大芝生広場をつなぐ約250mの遊具施設。東展望台への誘客のための施設として位置づけ。



ジップライン

⑤ サクラテラス・タキザクラの庭

現在のハーブガーデン及び舗装広場を改修。バリアフリー園路が縦断する芝生の疎林園地。植栽種はサクラを主体とし、その一部（現在の位置で継続）のタキザクラは、その由来や周囲の修景によって富士山のビューポイントに位置付け。また、域内調達率を視点として、門前の茶屋町をモチーフとしたレンタル店舗（現在のガーデンマルシェ）を園路沿いに複数棟、配置。



左上：ガーデンマルシェ（日本平）
左下：タキザクラ（日本平）
右：足立区都市農業公園

⑥ 梅園

既設の梅園の拡張リニューアル。一部に野点のための園地を配置。

⑦ 和風庭園＋茶屋

現在の「野鳥の家」の活用。「離れ」的静謐空間の特徴を活かし、梅園と景観的に連続する梅の和風庭園として活用。現在の建物は構造調査の上、リフォームして甘味処や和風レストラン等として活用。



日本平野鳥の家



梅を主木とした和風庭園（池上梅園）

⑧ 交通ターミナル

センター広場に隣接した位置に、バス駐車場や身障者対応駐車場、路線バス停留所、タクシー乗り場、自動二輪駐車場、駐輪場等の交通施設を集約して配置。併せて園内カート乗り場を併設。

施設配置案・イメージ

(3)奥庭

～歴史が伝える四周の眺望～

久能寺（現在は東照宮）への現代の参詣道であるロープウェイと、東照宮にあった五重塔をデザインモチーフとしたデジタル電波塔や、夢殿にも擬することのできる夢テラス、展望回廊をシンボルとした静謐の園地として活用

民間施設誘導区域(7500 m²)
＜施設例＞：グランピング



施設配置案・イメージ

【施設概要・イメージ】

① 民間施設誘導区域（施設例：グランピング）

宿坊をモチーフとしたアウトドアをリゾート感覚で快適に楽しむキャンプスタイルの宿泊施設。夢テラス及び展望の丘北側の斜面地を利用。景観に配慮し、棟間をゆったり確保した配置のテント形式（概ね1区画 100㎡、8から10区画を想定）を基本とし、園地部も疎林や林床の花低木等によって宿泊地環境を整備。民間事業者の参画誘導施設として位置づけ。



舞子リゾート（新潟県南魚沼市）



グランピングスペースエンキャンプ（長野県塩尻市）

(4) その他

① 茶畑（全景の茶の間）

大芝生広場からアクセス道路をはさんで北東側に位置する茶畑（民間）は、富士見景観のビューポイントでもあることから、現在の位置、範囲で存続。現在の営農者が高齢のため廃業を希望しており、公園化に際しての維持管理手法が課題。

② 有度山山頂

現在は、都市計画区域外にある有度山の山頂部。展望史跡（超然台）のひとつであり、四周眺望のビューポイントであることから、吟望台からの吊り橋により動線を確保した上で、新たな展望施設に追加。



ご意見いただきたい内容



今後、基本計画の改定と、公園整備を進めてまいります、
今回説明しました基本計画案における施設配置案等の内容を踏まえ、
どのような条件・インセンティブがあれば、
PPPを活用した展開が見込めるかご教示いただきたいです。

日本平公園基本計画改定について
詳しくはこちら



市公式ホームページ
「静岡市日本平公園基本計画改定専門委員会」